



学校だより

4月号

横浜市立大道小学校
令和5年4月7日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「あいさつの大切さ」

やわらかな春風を頬に感じ、心華やぐ季節となりました。残念ながら桜は散り始めましたが、明るい光の中、入学式・始業式を迎えることができました。ぴかぴかの新1年生 65 名を迎え、合計 345 名での嬉しいスタートです。今年度も、保護者・地域の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、学校教育目標「いきいき学び、かがやく大道っ子」の実現を目指し、「愛」の溢れる学校づくりを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私事で恐縮ですが、本校に着任して、今年度で 5 年目を迎えます。自分の「ホーム」となった大道小で引き続き勤務できること、愛する「大道っ子」の成長に立ち会えることを大変嬉しく思っています。同時に、「『慣れた。』」と思って、気を抜くな!と、自分を戒めなくてはならないとも思います。「今までそうだったから…」というように簡単な方に流されず、常に「子どもたちにとって、どうするのがいいのか。」ということを考え、取り組んでいきたいと思っております。お気づきの点がありましたら、ご遠慮なくお知らせください。

私たちは、自分から「あいさつ」ができる子を育てたいと思っております。

だれでも 元気に おはよう
いつでも 明るく こんにちは
どこでも 笑顔で さようなら
うれしい あいさつ 大道っ子

子どもたちにとって、もしかしたら校歌以上になじみの深い、「大道っ子マーチ」の一節です。歌詞にあるように、気持ちよく「おはよう」「こんにちは」、「さようなら」といったあいさつをすると、あいさつをされた人だけでなく、自分も嬉しくなります。「挨拶」という

漢字には、「相手の心の扉を押して、近付く。」という意味があるそうです。あいさつをすることで、相手と近付いたことを実感でき、嬉しくなるのかもしれませんが。このように、子どもたちが、いろいろな人と良い関係を築くという意味で、あいさつが大切なのだと思います。「礼儀」の基本が、ここにあるのかもしれませんが。

「この歌があるから。」というわけではないと思いますが、上手にあいさつができる「大道っ子」が増えてきました。日々の指導や、児童会で行う「あいさつ運動」の成果が出てきているのかもしれませんが。しかし、みんなが元気にあいさつをするわけではありません。朝、校舎の前に立ち、子どもたちを出迎えていると、口が動くのが分かる程度の子や、首を縦に少し動かすだけの子などもあります。これは、小学生の発達段階や、その日の気分や体調がすぐれない子がいることなどから、当然のことかもしれません。大切なのは、私たち大人がそういった子どもの様子に気づき、「何か心配なことがあるのかな。」「嫌なことがあったのかな。」と、気に留めることだと思います。そして、声をかけたり、普段の会話を増やしたりするなど、その子の心をほぐすことで子どもを理解し、寄り添うことができると思います。子どもからの「サイン」を見逃さないようにするためにも、大人の側から、進んであいさつをしていきたいと思っております。

新年度、様々な意味で、「あいさつ」の大切さを改めて考えたいと思っております。